

第73回 ワルツ調の歌謡曲は なぜ似てきてしまっているのか

中学2年の冬、トニー・カーティ
スとジャック・レモンが主演した
『グレートレース』というドタバタ
喜劇を渋谷東急で観て感激、主題歌
『スイートハート・トリー』は、私
が初めて購入したサントラ盤となり
ました。

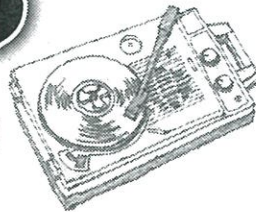
映画の中で相手役のナタリー・ウ
ッドがギターを爪弾きながら歌って
いるシーンが忘れがたくレコード屋
に向かったのですが、帰宅後、プレ
イヤーから聞こえてきたのはナタリ
ーの歌でなく、映画の冒頭で流れた
混声コーラスのバージョンでした。
後年知ったことですが、『ウエスト・
サイド物語』の劇中で『トゥナイ
ト』が歌われたケース同様、実はナ
タリーの歌声は吹き替えによるもの
でした。

『スイートハート・トリー』の作曲
者、ヘンリー・マンシーニの代表作
の一つに『ムーン・リバー』があり
ますが、『スイートハート』同様、
これも3拍子の名曲です。昭和30年
代、ラジオからはハリウッド製の映

画音楽『エデンの東』や『八十日間
世界一周』などバラエティーに富ん
だ3拍子音楽が流れ、長いスパンで

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも

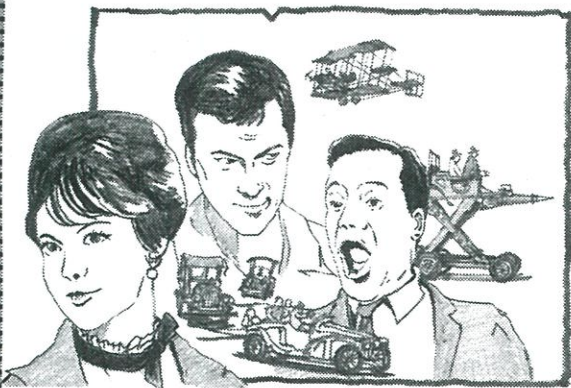


堀井六郎
絵・松本浦

リクエスト番組を賑わせてくれまし
た。
一方、日本の歌の世界を振り返っ
てみると、ワルツ調の3拍子の曲が
少ないうえ、3拍子のヒット曲から
はパターンが見えてきます（話を簡
略化するため、以下、8分の6拍子も4
分の3拍子扱いとさせていただきますし
た）。

旅情あふれる長調タイプの3拍子
ソングの系譜として、五木ひろし
『千曲川』、小林旭『北帰行』『北へ』、
加藤登紀子『琵琶湖周航の歌』、東
海林太郎『琵琶湖哀歌』、森繁久彌
『知床旅情』がありますが、大正2
年に発表された唱歌『早春賦』、同
4年に発表された『ゴンドラの唄』
あたりがルーツな
のかな、と推測し
ています。

短調タイプの系
譜だと、『北上夜
曲』、『惜別の歌』、
『あざみの歌』か
ら『影を慕いて』
の古賀メロデー
へと至り、こちら
はどうも明治38年
に発表された『美
しき天然（天然の



美』あたりに行き着きます。
似てきてしまう背景には、これら
の歌詞が七五調や七七調で作られて
いるため、そこに音符をあてていく
となると、どうしてもリズムや旋律
が類型的な作品になってしまいうとい
うことなのでしょう。

「斬新だなあ」と私が感じた3拍子
歌謡ですが、前回ご紹介した西田佐
知子の『くれないホテル』以外に、
吉田拓郎『こっちを向いてくれ』、
クールファイブ『愛のいたずら』な
どがあります。この2曲も歌詞先行
で作られたのでしようが、文字数な
ど定型にとらわれていません。四分
音符に何文字もの言葉が乗った旋律
は、英単語にメロディーを乗せてい

くような作曲手法を
感じさせます。
冒頭のハリウッド
製3拍子ソングに戻
りますが、そもそも
『星条旗』という国
歌自体が3拍子であ
ることを考慮してみ
れば、3拍子の名曲
が頻出するのも米
人にとっては当然の
ことなのかもしれま
せんね。